

修士論文(要旨)

2015年1月

10代後半の青年2人にみる貧困の課題
—言語・社会的環境を出発点に—

指導 佐々木倫子 教授

言語教育研究科

日本語教育専攻

213J3007

黒江一樹

Master's Thesis (Abstract)
January 2015

The Issue of Poverty as Seen in Interviews with Two Adolescents:
From the Perspective of Linguistic and Social Environments

Kazuki Kuroe
213J3007
Master's Program in Japanese Language Education
Graduate School of Language Education
J.F. Oberlin University
Thesis Supervisor: Michiko Sasaki

目次

第1章	はじめに.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
1.1	研究の背景.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
1.2	研究の目的.....	エラー! ブックマークが定義されていません。3
1.3	用語の定義.....	エラー! ブックマークが定義されていません。3
第2章	先行研究.....	4
2.1	『貧困』の基本的概念.....	4
2.2	貧困の世代間継承.....	5
2.3	子どもの貧困.....	5
第3章	調査概要.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.1	調査対象者.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.2	調査方法.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
3.3	分析方法.....	10
3.4	文字化の方法.....	10
第4章	調査結果・兄弟のケース.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
4.1	JF のケース.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
4.2	兄 (JF・B) のケース.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
第5章	JM のケース.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
5.1	JM の場合.....	35
第6章	分析と考察.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.1	言語・学習環境.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.2	年齢による貧困の影響.....	47
6.3	3人のTEM 図より.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.4	総合的考察.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
6.5	おわりに.....	エラー! ブックマークが定義されていません。
謝辞	62
参考文献	I - III
巻末資料	i - ii

【修論要旨】

本研究では「子どもの貧困」を対象に、言語・社会的環境を出発点とし、貧困経験がどのような影響を与えるのかを調査する。そしてそれらを明らかにした上で、日本における貧困政策の課題を検討し、今後の社会的・教育的課題について提言を試みる。

日本における貧困研究は数多くの研究者たちによって発表されている。先行研究では、貧困の基本的概念について整理し、貧困のメカニズムを見た。また、子どもの貧困についても先行研究ももとに、貧困状態に置かれている子どもたちが如何に不利を被っているのか、困難な状態に置かれているのかを見てきた。

それらを踏まえ、本研究ではインタビューを通じて当事者たちの声を拾う。当事者たちの声を深く聞くため、貧困経験のある10代後半の男女2名とその兄弟や周辺へのインタビューを実施した。具体的な調査項目は家庭環境、人間関係、言語・学習環境、自分自身について聞いた。インタビューで得られた質的データは、サトウ・安田(2012)のTEM(複線経路・等至性モデル)を採用し、協力者がどのような人生経路を選択し、人生を歩んできたのかを見て分析を進めた。

インタビュー結果はTEMによって分析したデータをプルデュー(1991)の視点から更に分析をした。

まず、貧困経験のある協力者たちは総じて言語的環境が整っておらず、特に両親からの学習への関与が全くされていないことがわかった。また、社会的環境から大きな影響を受けていることも見えた。更に複合的に見てみると、言語的環境が整っていなかったとしても、社会的環境が整っていれば、一定の成績が収められることがわかった。

これらの結果から、従来のようにただ貧困状態にある子どもを直接的に支援すればいいのではなく、むしろ子どもたちが暮らす環境を整備することの方が重要であるという示唆を得た。つまり、社会的環境である、地域や学校を整備することによって貧困状態にある子どもたちの成長が促されるということを明らかにした。

更に本稿では、考察から得られた社会的環境という視点に立ち貧困施策に対する提言をおこなった。具体的には(1)子どもの居場所づくり、(2)学社融合・連携の促進、(3)教員養成プログラムの3点について言及をした。どれも地域の教育力を生かしたプログラムの紹介や提案をおこない、最後の教員養成プログラムでは福祉的観点を含んだ教員養成を提案し、地域だけではなく、人の育成について述べた。

本研究は比較的新しい研究方法であるTEMを使用した。その結果、協力者ひとりひとりの多様な人生を詳細に描くことにある程度成功した。協力者ひとりひとりの声を聞くことで、当事者たちの声を拾うことができたのではないかと考えている。しかし、本研究の調査には限界がある。本調査において見ることが出来たのは2家庭の事例に過ぎない。それらも踏まえ、今後の課題として(1)調査範囲の拡大、(2)貧困測定法の確立、(3)貧困家庭の子ども居場所づくりへの貢献という3点を挙げた。

今後は貧困という状況に苦しむ当事者の声を拾っていけるような教育実践を行うなかで、課題の追及を続けたい。世の中に貧困が広く認知されれば幸いである。

参考文献

- 朝日新聞「部活委託に高いハードル 大阪市、来年度から試行 人材確保や費用に課題」2014年11月14日夕刊
- 阿部彩(2008)『子どもの貧困—日本の不公平を考える』岩波新書
- 阿部彩(2012)『弱者の場所がない社会—貧困・格差と社会的包摂』講談社現代新書
- 阿部彩(2014)『子どもの貧困Ⅱ—解決策を考える』岩波新書
- 岩川直樹・伊田広行(2007)『貧困と学力』明石書店
- 宇佐美まゆみ(2007)「改訂版:基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)2007年3月31日改訂版」『談話研究と日本語教育の有機統合のための基礎的研究とマルチメディア教材の試作』平成15-18年度科学研究費補助金 基盤研究B(2)研究成果報告書
- 内田伸子(2012)「日本の子育ての格差-学力基盤力の格差は幼児期から始まっているか」『世界の子育て格差-子どもの貧困は越えられるか』金子書房,pp.1-19
- 大山典宏(2008)『生活保護 VS ワーキングプア—若者に広がる貧困』PHP 新書
- 大山典宏(2013)『生活保護 VS 子どもの貧困』PHP 新書
- 戒能民江(編著)(2006)『DV 防止とこれからの被害当事者支援』ミネルヴァ書房
- 駒村康平・道中隆・丸山桂(2011)「非保護母子世帯における貧困の世代間連鎖と生活上の問題」『三田学会雑誌』,pp.619-645
- サトウタツヤ(編著)(2009)『TEM で始める質的研究』誠信書房
- 東京都福祉保健局(2005)『児童虐待の実態Ⅱ』<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/jicen/gyakutai/index.files/hakusho2.pdf>
- バジル.B.バーンステイン(1971)『言語社会化論』荻原元昭編訳,明治図書
- 松本伊知郎(編著)(2010)『子ども虐待と貧困—「忘れられた子ども」のいない社会をめざして』明石書店
- 松本伊知郎(2013)「教育は子どもの貧困対策の切り札か?」『貧困研究』(11)貧困研究会,pp.4-9
- 耳塚寛明・浜野隆(2014)『平成25年度全国学力・学習状況調査(きめ細かい調査)の結果を活用した学力に影響を与える要因分析に関する調査研究』国立大学法人お茶の水女子大 http://www.nier.go.jp/13chousakekkahoukoku/kannren_chousa/pdf/hogosha_summary.pdf
- 安田裕子・サトウタツヤ(編著)(2012)『TEM でわかる人生の経路:質的研究の新展開』誠信書房
- 山野良一(2008)『子どもの最貧国・日本—学力・心身・社会におよぶ諸影響』光文社新書
- 山野良一(2014)『子どもに貧困を押しつける国・日本』光文社新書
- J.C.パスロン&P.ブルデュー(1991)『再生産』藤原書店

参考 URL(2014年12月18日最終検索)

子どもの貧困対策の推進に関する法律

<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/H25/H25HO064.html>

子供の貧困対策に関する大綱について

<http://www8.cao.go.jp/kodomonohinkon/pdf/taikou.pdf>

厚生労働省「相対的貧困率の公表について」

<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2009/10/h1020-3.html>